

年 間 授 業 計 画

科 目 名		商品開発応用		単位数	3 単位	学年・学科		3 学年 流通ビジネス科		必修―― ・ 選択	
教科書名						副 教 材 名					
科 目 の 目 標		商品開発に関する基礎的知識を活かし、旭川地域の特色ある各種資源を用いて顧客満足の視点に立った市場性のある商品を具体的に企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。									
学習内容と進め方		商品開発に関する知識や技術の活用、実習を通して習得するとともに、企業の商品開発に対する考え方や姿勢を理解する。									
学 習 の 留 意 点		2 年次までに学んだ「商品開発」「マーケティング」の内容を踏まえ、具体性のある企画書を作成する。企業との打ち合わせは、「ビジネス実務」で学んだ内容を活かして実施すること。									
月	単 元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）				
				1	2	3					
4	学習の意義・目的 オリエンテーション	6	商品開発の意義と手順			○	・研究ノートに記入するとともに、研究ノートの使い方を理解する				
		6	過去 2 年間行った商品開発の分析	○		○	・分析結果をもとに、企業が自社の特徴を踏まえて商品開発に関する意思決定を行う過程について理解する				
5	環境分析	3	SDG s の学習（DVD教材とワークシート）	○	○	○	・商品開発の背景と社会課題について考察を深めてワークシートに記入する				
		5	商品開発テーマの決定	○			・4WIH により開発テーマを整理・検討し、市場細分化によって標的市場を設定すること、またその意義について理解する				
			商品開発方針決定		○	○	・協働的に検討を進め、検討の過程を含めて研究ノートに記録できる				
			商品分野(カテゴリー)の検討		○	○	・協働的に検討を進め、検討の過程を含めて研究ノートに記録できる				
			標的市場、流通経路の検討		○	○	・協働的に検討を進め、検討の過程を含めて研究ノートに記録できる				
			具体的な開発商品のテーマ決定		○	○	・開発の背景や目的を的確に他者に伝えることができる				
6	市場調査	8	アンケートによる市場調査	○	○	○	・市場調査の内容を認識し、資料調査と実態調査の二つの市場調査の方法について理解する				
				○			・市場調査の五つの手順について理解する。				
				○			・FA質問、MA質問、SA質問、ブリコードの設計、評定法、エディティング、アフターコーディングの手法を理解する				
7	企画書の作成	5	商品コンセプトの立案	○			・ブレインストーミングと KJ 法、欠点列举法の手法を理解する				
					○	○	・手順に従い事実と意見を区別し、他者と協働的に取り組む				
8		9	連携企業との打ち合わせ・企画書の修正	○	○		・仕様書に基づき、試作品を作成し、評価の項目と基準を設定して試作品を評価し、設計・仕様の変更を行う過程について理解する				
			仕様書の作成			○	・調査した根拠に基づき仕様書の作成に取り組む				
9	試作品の作成と評価	9	試作品のテスト	○		○	・機能テストや消費者テスト、市場テストなど開発商品に関するテストの方法について理解する。				
			連携企業との打ち合わせ・仕様書の修正		○	○	・課題を適切に整理し根拠に基づいて修正し、表現することができる				
					○	○	・科学的な手法に基づき改善点を整理することができる				
1 0	デザインの基礎	1 3	開発商品の改善	○			・デザインの種類と、商品開発と関わりの深いデザインについて理解する				
1 1		1 1	パッケージデザイン	○			・パッケージデザインの機能や種類、制作上の重視点について理解する				
				○			・パッケージデザインの具体的な事例を取り上げ、その効果を理解する				
				○			・販売員活動の意義と方法について理解する				
1 2	販売実習 販売促進	1 1	販売員活動		○	○	・適切な態度で正しい商品知識を伝えることができる				
1	商品開発のまとめ	1 3	これまでのまとめ	○	○		・研究ノートや資料を時系列に整理しまとめることができる				
2		6	商品開発発表会	○	○		・発表者の立場では、開発の過程も含めわかりやすく適切に発表することができる				
					○	○	・参加者の立場では、他の商品の発表を正しく分析し、今後の開発に生かそうとすることができる				
評価方法		(1) ワークシートにより考察する活動の様子を観察し、「思考・判断・表現」を評価 (2) 研究ノートにより取り組みの過程を観察し、「主体的に学習に取り組む態度」を評価 (3) 企画書、仕様書、アンケートなどの制作物と小テストにより「知識・理解・技能」を評価									
評価の観点	観点		趣旨								
	1. 知識・技能		・多面的な観点から問題を眺め、様々な情報や証拠を用いた高度な判断をして、一番効率の良い最適な答えを導き出すことができる。 ・商品流通に関する諸問題を客観的に把握し、その解決のために計画を立案・実施して、得られた成果を適切に表現できる。 ・試作品を完成させるまでの手順に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、商品仕様と仕様書に基づいた詳細設計を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。								
	2. 思考・判断・表現		・消費者が求める商品開発を目指して、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、商品コンセプト及びデザインの考案者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 ・課題を解決するために、学習した知識や見識を活用し、適切に判断して、創意工夫する能力が身についている。（個人の意見をグループの意見に反映させる等、自ら考え理解しようとした）								
	3. 主体的に学習に取り組む態度		・商品開発について関心をもち、顧客満足を実現することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を身に付けている。								
評価基準	1. 知識・技能		A 商品開発に関する発展的な知識と技術を身に付け、外部に表現する創造的な能力を身に付けている。 B 商品開発に関する基礎・基本な知識と技術を身に付け、外部に表現する能力を身に付けている。 C 商品開発に関する基礎・基本な知識と技術が不足しており、外部に表現することができない。								
	2. 思考・判断・表現		A 商品開発に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 B 商品開発に関する諸課題の解決を目指して考え、基礎的・基本的な知識と技術を基に、表現する能力を身に付けている。 C 商品開発に関する諸課題の解決を目指して考え、基礎的・基本的な知識と技術を基に、表現することができない。								
	3. 主体的に学習に取り組む態度		A 商品開発に関する諸課題について高い関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。 B 商品開発に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して取り組もうとする実践的な態度を身に付けている。 C 商品開発に関する諸課題について関心を持たず、その改善・向上を目指して取り組もうとする態度を身に付けていない。								